

民族舞踊文化



No.11

1998年6月15日

THE MAYUZUMI FOUNDATION FOR TRADITIONAL FOLK DANCE

財団法人 黛民族舞踊文化財団

〒107-0052 東京都港区赤坂3-10-3 黛ビル4F

TEL 03-3583-3633(代) FAX 03-3583-3639



情歌（歌垣）中国雲南省文山州硯山県

日中民族舞踊 友好交流事業の進展

（財）黛民族舞踊文化財団

理事長 犬丸 直

本年3月16日から26日まで、楊利先団長以下6名の中国雲南省舞蹈家協会第7次訪日代表団が来日され、日本側からは、黛民族舞踊団のみならず、琉球舞踊川田功子の会のメンバーその他の方々の御参加をいただき、東京、横浜、群馬県の各地において、日中民族舞踊の相互公演、公開レッスン、研究会など、たいへん盛り上がった交換事業を展開し、多くのひとびとに感銘を与えることができました。参加された舞踊家や他の舞台芸術家はもちろん、共催し、後援し、また御援助下さった各団体、各機関等に心から御礼申し上げます。

その後3月29日から4月9日まで、大野晃常務理事が団長となって、黛民族舞踊団の一行8名が、中国雲南省を訪問し、昆明市・文山市等で交流公演を行い、また文山自治州の壮族、苗族、彝族等の村々をまわり、大変な歓迎を受け、相互交流の実をあげてまいりました。お世話になった中国の関係の方々に厚く感謝申し上げます。

また当財団よりの助成により進められている劉金吾先生の御執筆にかかる中国の民族舞踊と稲作文化に関する著作がこの度出版されました。申すまでもなく、劉先生は、長い間雲南省舞蹈家協会の常務副主席を務められ、昨年は訪日代表団の団長としておいでになりました。黛節子先生とは古い友人であります。出版されたこの著作を、何とか邦訳して日本の多くの人に親しんでもらう方途をさぐりたいものです。承れば節子先生は、日本における同じ主題にかかる著作を考えておられたとのこと。この方もしかなるべき人を得て実現する途はないのでしょうか。

このように故黛節子先生が蒔かれた日中民族舞踊交流の種は、次第に芽を出し、育ち、花を咲かせ、実を結びつつあります。各方面の一層の御支援、御指導により、この樹が大きく栄えて行くことを、切望する次第です。

雲南省舞蹈家協会第七次訪日代表団日中民族舞踊交流会

1998年3月16日－3月26日



犬丸理事長と楊団長

【訪日代表団メンバー】

団 長	楊 利 先	男性（白族）	雲南省文聯副秘書長
団 員	沙 車	男性（基諾族）	基諾族民間芸人
	喻 良 其	男性（白族）	大理州民族歌舞団団長
	陸 娜 寧	女性（漢族）	臨滄地区民族芸術団団長
	葛 樹 栄	女性（漢族）	雲南省民族芸術研究所舞蹈研究室副主任
	褚 永 英	女性（漢族）	玉溪地区芸術創作研究所音楽舞蹈室主任

《民族舞踊交流会スケジュール》

1998年

3月17日（火）	「藤守の田遊び」取材	静岡県大井川町大井八幡宮
3月18日（水）	〃	
3月19日（木） 18:30	舞踊交流会	横浜市教育文化センター・ホール（関内）
3月20日（金） 14:00	公開レッスン	群馬県新田町文化会館エアリスホール
3月21日（土） 14:00	舞踊交流会	群馬県新田町文化会館エアリスホール
3月22日（日） 14:00	舞踊交流会と研究会	学習院大学百周年記念会館（目白）
3月23日（月） 18:30	舞踊交流会	東京芸術劇場小ホール1（池袋）
3月24日（火） 18:30	舞踊交流会	東京芸術劇場小ホール1（池袋）

出演 中国雲南省舞蹈家協会・琉球舞踊川田功子の会・黛民族舞踊団



中国大使館・耿墨學文化参事官を表敬訪問

《民族舞踊交流会記録》

3月16日

中国雲南省舞蹈家協会第7次訪日代表団楊团长以下一行6名は、12時30分MU523便にて、定刻より20分早く成田空港に到着。空港で昼食の後14時30分発のリムジンバスで東京に向かう。赤坂黨ビルでは大野常務理事を始めスタッフが出迎え。直ちに公演の打ち合わせを行う。その後ビル内3階の“司丸釜”で全員韓国料理の夕食をとる。

3月17日

東京駅9時31分発の“こだま号”で静岡へ。途中富士山を見るのを楽しみにしていたが、残念ながら曇り空で見ることが出来ず、乗り換えて焼津に向かう。行事参加まで時間があるので、一行の希望に沿い西焼津セントラルホテルの送迎バスで遠州灘に出る。

生まれて初めて海を見る人もいて、「海水は本当に塩辛いのか？」と聞きながら舐めてみたり、記念写真を撮ったり、お土産に貝殻や小石を拾ったりと、思い思いに楽しい一時を過ごす。

15時過ぎ、町役場に大井町・横山町長を表敬訪問。その後目的地藤守の大井八幡宮に向かう。社殿で太田良宮司を始め氏子総代や町の有力者の方々の温かいもてなしを受ける。

中国の天津から当地にお嫁入りしたという玉さんも加わり、代表団の女性達と話しに花が咲く。

18時から境内の仮設舞台で『藤守の田遊び』が始まる。この地には古来から神を迎え、鳥追、田植、稲刈等25番の稲作行事を、未婚の青年（現在は主として男子高校生）が女装して演じる郷土芸能が伝えられており、1977年には国の重要無形民俗文化財に指定されている。

代表メンバーも延々と続くこの『田遊び祭』に興味を示し、まだ肌寒い風に当たりながら、焚かれた篝火の間を縫って写真を撮ったり、同行して下さった文化庁の星野絃専門調査官の説明に耳を傾けたり、夜の更けるのも忘れ取材を続けた。

3月18日

朝食の後、早めにホテルを出て帰路に就く。この日は晴天で富士山が見事な姿を現し、代表団一行は富士の見える窓側にくぎづけとなる。途中乗り換え駅では、富士を背景に記念撮影をするなど印象に残る旅となった。

帰京後、赤坂で電化製品の買物をして、銀ブラの後、浅草・仲見世へ。「雲南にも観音がある」といいながら浅草観音を拝観。仲見世では日本人形や煙草入れ、財布、化粧箱等のお土産ショッピング。夕食は中華料理店で広東料理の定食。



林田英樹文化庁長官を表敬訪問



交流公演を終えて（東京芸術劇場）

3月19日

横浜日本中国友好協会との共催で、横浜市関内の横浜市教育文化センターホールにおいて、第7次訪日代表团との交流会を催す。来日以来最初の舞台ということで訪日代表团メンバーも些か緊張気味。午前中舞台の仕込みを行い、14時より琉球舞踊・川田功子の会のメンバーも加わって約2時間程舞台稽古を行う。

開演前、共催の横浜日本中国友好協会の方達は観客の入りを心配されていたが、開場と同時にみるみる場内は人で埋まり、

定員数を上回る530人の入場者で大盛況の会となった。公演終了後近くの中華料理店で日中友好協会の方達と歓談。中国語を習っている方もいて、日中両国語が飛び交う和やかな会となる。22時30分散。

3月20日

群馬県新田町に行くため浅草に向かう。浅草発9時40分の東武鉄道“りょうもう号”に乗るまで時間があつたので、一行は浅草観音にお参りに行くが、その内の1名が出発時刻間際になっても戻らなかったため通訳の洪さんが後に残る。太田駅到着後迎えのマイクロバスで新田町に向かう。乗り遅れた二人は1時間後の急行で到着。

新田町エアリスホールで昼食を済ませ舞台の仕込みにかかる。15時から訪日代表団のメンバーは、エアリスホールの体育館で地元のフォークダンスサークルのメンバー、並びに木崎音頭保存会の人達と公開レッスンを行う。日本側は『藝家楽』を教わり中国側は『木崎音頭』を習う。

夕方、一行は新田神社等を見学。18時よりホテル宴会場に於いて、新田町主催による歓迎パーティーが催され、山崎町長始め助役、収入役、教育長、新田町文化スポーツ振興事業団の方々が多数出席され、にぎやかな交流の宴となった。

3月21日

この日朝早くに東京を発った琉球舞踊・川田功子の会のメンバーも合流して、午前10時より舞台稽古開始。1000名収容の施設ながら新しいホールなので、本格的公演体制で準備に入る。14時開演で気持ちの良い舞台成果を上げることが出来た。

解体、搬出の後18時の急行で全員帰京。

3月22日

学習院大学百周年記念会館に於ける学習院大学東洋文化研究所アジア文化研究プロジェクト共催の交流会並びにシンポジウム。会場に11時到着。昼食の後リハーサルを行い14時交流公演開始。16時から同じ会場でシンポジウム。学習院大学諏訪春雄先生の司会で、パネラーは訪日代表团楊利先団長、舞踊評論家如月青子先生、黛民族舞踊文化財団大野晃常務理事、通訳曾紅さんの出席で、民族舞踊についての諸問題に就いて討論する。伝統継承と今後如何に展開したら良いのか等、意義のある意見の交換がなされた。終わって歓迎パーティ。



「藤守の田遊び」静岡県大井八幡宮

3月23日

午前中、池袋の東京芸術劇場小ホールで舞台仕込み開始。14時から約2時間リハーサルを行う。18時30分初日・本番。収容人員が少ないとはいえ、ほぼ満席となる。

客席の反応は良好。

3月24日

午前10時、中国大使館に耿墨學文化参事官を表敬訪問。訪日代表団一行と大使館の庭を散策。15時楽屋入りして夜18時30分から2日目の本番も無事終了。昨日に続き今日もほぼ満席。今回の交流会はどの公演も観客の評判も良く、観客動員もかなり成果があり、結果として成功したといつてよいと思う。終演後川田功子先生の沖縄料理のお店、池袋の“みやらび”で今回のスタッフ、出演者全員たのしい夕食をする。



「藤守の田遊び」静岡県大井八幡宮



学習院大学アジア文化研究プロジェクト
諏訪春雄先生との懇親会

3月25日

午前10時文化庁に林田英樹文化庁長官を表敬訪問、快く迎えて下さる。中国側から長官に記念品の贈呈があり、記念撮影をして退出する。その後一行はディズニーランドで日本に於ける最後の休日を過ごす。

18時から赤坂飯店で財団主催のさよならパーティーを開く。犬丸直理事長のご挨拶、橋岡久馬先生の乾杯の音頭で始まり、無事10日間の日程を終えた一行はくつろいだ表情で、仲濱先生の三線(さんしん)の調べに合わせてカチャーシーを踊ったり、新しい日本の友人達と身振り手振りで話したり、思い出深いひとときを過ごし、最後の夜を楽しんだ。

3月26日

成田発13時50分のMU524便で帰国の途につく。



「藤守の田遊び」静岡県大井八幡宮



さよならパーティーで三線をひく
仲濱靖一先生と川田功子先生他

《交流会プログラム》

第1部

1. 花腰傣舞蹈〔彝家樂〕

四弦琴を弾きながら、手を叩き足踏みをして娘達が楽しそうに豊年を祝う踊り。

2. 花笠踊り

東北・山形地方に伝わる代表的民謡を、現代のリズムにアレンジした作品。

3. 琉球舞踊〔四つ竹踊り〕(Aプロ)

四つ竹を鳴らしながら踊る優雅な踊り。

琉球舞踊〔古典鳩間節〕(Bプロ)

八重山の代表的な踊り。

4. 花腰傣舞蹈〔花街情〕

「趕花街」という市で娘達は華やかな衣装を着け鶏棕帽をかぶり、道行く人の目をひこうとする踊り。意中の人に出会おうと心を込めて作った香り袋をその人に投げ与える。

5. 伊予万才

四国・愛媛県に伝わる中国的でエキゾチックな雰囲気を持つ民俗芸能を現代のリズムにアレンジした作品。

6. 琉球舞踊〔遊び太鼓〕(Aプロ)

太鼓とパチを手に豊年を祝う軽快な踊り。

琉球舞踊〔黒島口説〕(Bプロ)

八重山群島・黒島に伝わる口説唄。島の自然の豊かさ、豊年の有様を歌い込んだ踊り。

7. 仮族舞踏・薨秧歌

仮族の若い男女の田園風景の中のコミックな踊り。

第2部

1. 白族舞踏〔阿達茵〕

“阿達茵”とは白語で“ここにいらっしゃい”という意味。又、“こんにちは”とか“良き友よ”という意味もあり、ここでは“ここにいらっしゃい、皆で楽しく踊ろう”といって踊る。

2. 琉球舞踊〔加那よー、天川〕(Aプロ)

男女が互いにミンサ帯と花染めの手巾ティサシを交換する「加那よー節」と、水辺で柄杓で水を掛け合う「島尻天川節」の二曲で構成された男女の仲睦まじい打ち組踊り。

琉球舞踊〔武の舞〕(Bプロ)

常盤木の松のように逞しくありたいとの若者の願いに、「鳩間節」の生産の喜びを重ねた祝い歌。振りも空手の型を随所に取り入れ凛々しい男踊り。



公開レッスン 新田町エアリスホールの体育館



彝家楽（彝族舞蹈）葛樹榮



彝家楽（彝族舞蹈）褚永英

3. 山中節

北陸・石川県の代表的民謡で、日本的な美しいメロディーに乗せて、山あいの霧が湧いては散っていくように、流れるような情緒溢れる踊り。

4. 佯族舞蹈〔踏山〕

この踊りは佯族舞蹈特有の腰から下の弾むようなリズムミカルな動きを用い、佯山に暮らす女性達の労働、休息、授乳等生活の場面を表現したもの。

5. 琉球舞踊〔三板の踊り〕

三枚の板を紐で結んだ三板（サンバ）を、手首もしなやかに打ち鳴らして踊る軽快な踊り。

6. 祝い舞〔花田植〕

東北・仙台の奥、秋保に伝わる民俗芸能で、豊年を願い一心に祈りを込めて苗を植える乙女達の姿を踊りにしたもの。

祝い舞〔豊年舞〕

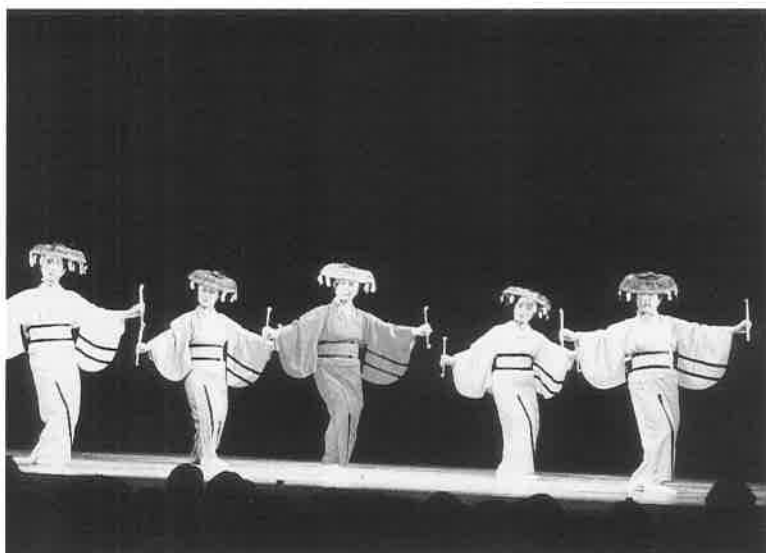
土に生きる人達の豊かな稔りを喜ぶ姿を描いた作品。

7. 基諾族舞蹈〔太鼓舞〕

基諾族の創世伝説で、祖先アーマイヤオバイが大洪水を引き起こした時、マヘー、マニューの兄妹を太鼓に入れて流し、その流れ着いた先が基諾族発祥の地という伝説に基づき、基諾族は祭りのとき「太鼓舞」を踊るようになったといわれる。



四つ竹踊り（琉球舞踊）川田功子



山中節 黛民族舞踊団

黛民族舞踊文化財団第五次訪中団日中舞踊交流会

1998年 3月29日～4月9日

団 長	大 野	晃
団 員	黛 智	英
	黛 今	子
	黛 莉	香
	石 原	真理子
	平 出	圭 子
	佐 竹	直 子
	藤 原	明 人



紙馬舞で歓迎（文山県水車寨）

《黛民族舞踊文化財団第五次訪中団》スケジュール

1998年

- 3月30日(月) 昆明着
- 31日(火) 彝族舞蹈詩「銅鼓の響き」観賞
- 4月1日(水) 文山州建州40周年民族芸術祭参加、文山州歌舞団と交流会
- 2日(木) 文山州文山県壮族・苗族村参観、文山州歌舞団と交流公演
- 3日(金) 文山州硯山県壮族村参観、硯山県歌舞団と交流公演
- 4日(土) 文山州邱北県彝族村参観、邱北県歌舞団と交流公演
- 5日(日) 昆明に帰る
- 6日(月) 雲南芸術学院で学院の舞蹈家学生と交流公演
- 7日(火) 石林遊覧
- 8日(水) 雲南民族博物館・雲南民族村参観、雲南省舞蹈家協会歓送宴会
- 9日(木) 帰国



ケーキ作り（文山県水車寨）

3月29日

黛民族舞踊文化財団訪中団一行8名は、成田空港午前10時発の日本航空731便にて出発。衣裳、小道具等携行荷物14個。4時間半のフライトの後、香港啓徳空港に到着。

この日は九龍グランド・タワー・ホテルに投宿。夜、香港島に渡り夜景を楽しむ。

3月30日

啓徳空港13時25分発の中国南方航空CZ342便で昆明に向かう。15時35分昆明着。夜18時より雲南省文联主催の歓迎会が開かれる。党組副書記李仕良氏、副主席劉鴻渝氏、副主席那家佐氏、副秘書長楊利先氏、雲南省舞蹈家協会主席刀美蘭氏、劉金吾氏、張亜錦氏、鄧輝氏、雲南民族博物館副館長尹紹亭氏の諸先生出席のもと盛大に行われる。



記念写真（文山県水車寨）

3月31日

午前8時30分昆明を出発。文山壮族苗族自治州建州40周年、文山三七節民族芸術祭に赴く。山岳道路を走ること約9時間、県都文山に到着。文山はヴェトナムとの国境に接し、ほんの数時間で国境にたどり着くことが出来る。夜18時文山州副州長王定星氏、州人大副主任馬春華氏、州文化局副局长梁宇明氏等の出迎えを受け、歓迎会を兼ねた夕食会が開かれる。その後、文山州民族歌舞団の公演“彝族舞蹈詩「銅鼓の響き」”を鑑賞。文山滞在中は文山州政府迎賓館に宿泊する。

4月1日

午前8時30分、市の大運動場で行われた「文山壮族苗族自治州建州40周年、文山三七節民族芸術祭」の開幕式に参加。開始前雨模様で天候が心配されたが、本番中に降られることなく無事盛大に挙行された。

14時州文化局副局长梁宇明氏、歌舞団団長饒均裕氏他多数参加して文山州民族歌舞団との交流座談会を行う。

20時より文山県歌舞団による公演“苗族歌舞「苗山彩虹」”を鑑賞。

4月2日

宿舎から車で約30分、文山県水車寨壮族・苗族村を訪問。素朴な村人の「紙馬舞」を見る。財団側は「花笠踊り」を披露。その後、村人による刺繍やケーキ作りを見学。民族衣裳を着せてもらう等交歓を重ねる。その間、地元テレビ局のインタビュー等を受ける。

20時から文山民族劇場にて文山県歌舞団と合同交流公演を行う。

4月3日

文山州硯山県の壮族の村を訪問。途中硯山県副県長余波氏、文化局局长黄氏の出迎えを受ける。江納鎮の壮族の家で壮族風の食事が用意され、その後、古代日本の歌垣のような若い男女の山唄を聞く。最後に村の広場で文芸隊の「掃地舞」や「雄鶏踊り」等を鑑賞し、財団側は「花笠踊り」を披露する。壮族訪問の後、硯山県文芸工作者との座談会を行う。

20時から硯山県委の講堂で硯山県歌舞団との合同公演を行う。県長蔣氏、県委副書記李建生氏等参観。



村での歓迎（文山県水車寨）



村での歓迎（文山県水車寨）



芦笙舞（文山県水車寨）



文山州歌舞団と共に

4月6日

午前中、雲南の仏教聖地“圓通寺”参観。20時雲南芸術学院の舞台で、学院の舞蹈科の学生との合同交流公演を行う。党組副書記李仕良氏、文聯副主席兼書記長劉鴻渝氏他、昆明の諸先生方が揃って観劇。終わって一同舞台上で公演成功を祝福しあう。その後日本からの留学生2名を交え、学院食堂で深夜まで打ち上げ乾杯。

4月7日

この日は昆明からおおよそ100キロ程の有名な観光地“石林”に向かう。入口から徒歩で屹立する奇岩の間を通り抜けて頂上の展望台に達する。一面に聳える石の林に感動。

夕方、雲南民族博物館副館長尹紹亭先生の招待で珍しい騰冲料理を御馳走になる。



左より、聶華先生・鄧輝先生・刀美蘭先生・大野団長・張亜錦先生

4月8日

雲南民族博物館見学。学芸員の詳しい説明を聞きながら、少数民族の様々な風俗習慣の一端に触れる。近くの雲南民族村で昼食をとり、帰りがけ昆明の国際貿易センターに寄り買い物を済ます。

夜、雲南省舞蹈家協会主催のさよならパーティーが催される。第1次からの訪日団の各団長をはじめ、来日した主要メンバーが多数顔を揃え、盛大且つ感激的な宴となる。



雲南芸術学院の公演の後で 左から葛樹榮、石原真理子、黛智英、黛莉香



黒島口説 黛民族舞踊団

中国側は各地域毎に民族舞踊団があり、組織的には我が国より恵まれた状況だと思うが、各地での座談会を通じて訴えられたことは、後継者づくりの難しさということであった。

中国でも若い人達との意識の違いによる問題が生じつつあることが分かった。

又、各民族舞踊団ともバレエ等の基礎を盛り込んだ共通カリキュラムによる指導方法がとられているため、作品の内容が似たようなスタイルになり、少数民族のもつ本来の個性が希薄になるように感じた。このことは伝統の保持と近代化の関係を如何に処理してゆくか、我々にとっても大きな課題といえる。

4月9日

夜8時、翠湖賓館を出発。10時35分中国南方航空CZ341便にて香港に向かう。12時30分香港着。14時45分香港発日航JL732便に乗り換え、19時45分成田空港着で全員無事帰国。

今回の訪中交流公演を通じて感じたことは、雲南省舞蹈家協会のみならず、上部組織の雲南省文聯幹部の方々の手厚い配慮もあり、大変贅沢できめ細かい日程内容であった。

又、当舞踊団の今回のプログラムが好評だった原因の一つに、スピーディーな内容の曲が多かったことが上げられる。これは中国との交流の影響ではないかとの指摘を受けたが、中国との交流を始める遙か前、黛節子先生が1950年～60年代に創られた作品であることを説明し、改めて黛先生の先進性を認識してもらうことが出来た。



伊予万才 黛民族舞踊団



文山市 硯山県歌舞団と共に



祝い舞 黛民族舞踊団



越中おわら 黛民族舞踊団



雲南芸術学院の皆様と共に



雲南芸術学院・司会の張藝宵先生



雲南芸術学院の舞踊家たち



楽器二胡（硯山県江納鎮）



掃地舞（硯山県江納鎮）



壮族の衣装を説明する劉金吾先生(右)・聶華先生(左)（文山県水車寨）



硯山県歌舞団と共に



彝族村での歓迎（邱北県普者黑）



火把舞（たいまつ踊り）邱北県普者黑



火把舞（たいまつ踊り）邱北県普者黑



織錦幡画（傣族）雲南民族博物館にて

財団法人

黛民族舞踊文化財団のあらまし

財団法人黛民族舞踊文化財団は、我が国伝統の民族舞踊を舞台芸術として確立し、その普及向上を図るとともに国際文化交流を行うことを目的として、昭和61年3月文部大臣から設立を許可された団体です。

財団設立後は、(1)民族舞踊普及向上のための中央における公演をはじめ、地方巡業公演を活発に行ってひろく一般にこれを紹介し、また研究成果の発表会等を開催し、(2)後継者の育成を目的として民族舞踊の研究者（音楽、振付けを含む）、舞踊家のための研究会、研修会等を開催して創作活動を奨励すると共に技能の向上を図り、(3)日本各地および中国・韓国・東南アジア諸国の民族芸能を取材し、その研究を行うと同時に収集した資料を整理保存して一般にこれを提供し、将来は資料館を設立して一般の利用に供することを計画していま

す、また、(4)世界各国にはそれぞれ民族舞踊団が国家の庇護の元に活動していますが、これらの舞踊団との交流や、中国・韓国・東南アジア諸国の民族芸能伝承者たちとの交流等、幅ひろい国際交流を推進して相互の連携と研鑽につとめ、(5)民族舞踊、民族芸能に関する資料および研究成果等の出版物を刊行して、民族舞踊に対する理解を深める目的達成のため、年次を追って事業を充実していきたいと考えております。

しかしながら、事業を発展充実させていくためには、何と申しましても経済的基盤を確立する必要があることを痛感いたしております。

当財団が、真にわが国を代表する民族舞踊の振興団体として育てまいりますよう、財団の事業目的をご理解くださり、各界の方々の御支援を心からお願い申し上げます次第です。

つきましては、当財団には賛助会員規程を設けておりますので、皆様にはぜひ賛助会員として、会費により御支援を賜りたく、お願い申し上げます次第です。



文山州建州40周年民族芸術祭

《今後スケジュール》

1999年7月

雲南省第8次訪日代表团招請

民族舞踊文化 NO.11

1998年6月15日発行 発行人 犬丸 直 編集人 大野 晃

〒107-0052 東京都港区赤坂3-10-3 黛ビル4F Tel 03-3583-3633 (代)
Fax 03-3583-3639

財団法人 黛民族舞踊文化財団

THE MAYUZUMI FOUNDATION FOR TRADITIONAL FOLK DANCE

MAYUZUMI BLD 4F,3-10-3,AKASAKA,MINATO-KU,TOKYO